Vol.59

まるとみ新聞

newspaper
'18 Apr.

発行所
北九州市若松区本町 1-1-33
丸富産業（若松区役所前）
TEL093-751-1081

すまい de スマイル
30年4月号

住まいの雑学 TRIVIA

シェルターはいかが

シェルターの注文が急増中

いま日本からアメリカの会社に家庭用核シェルターの注文が相次いでいるといいます。その数は前年比でおよそ10倍。製造が追いつかないほどの人気ぶりなんだそうです。

理由はもちろん、弾道ミサイルの発射を繰り返す北朝鮮の脅威。日本への核攻撃が絵空事とはいえなくなってきているということですね。

お値段はやはり高額

核シェルターとなると地下に埋設するのが一般的ですが、本格的なものだと2500～3500万円はかかり、かなりお金を持っていないと難しいですね。

人気があるのは、6人が半年から1年滞在できて980万円（輸入・施工費別途）というタイプだそうですが、これもまだまだ高い。

なかには放射性物質をろ過できる空気清浄機だけ自宅に設置するという人も多く、これなら180万円くらいで購入できるようです。

地震用はお手頃価格？

さらに身近な心配として、自宅に耐震シェルターを設置する人も増えています。こちらは時間との勝負ですから家の中に設置できるようコンパクトなものが多いのが特徴。

ひと部屋だけに堅牢なパネルを入れて耐震ルームにする方法（約25万円）から、パニックルームのように部屋の一部に箱型シェルターを設置するもの（約20万円）、押し入れサイズ（約25万円）、テーブル型（約28万円）などなど。

就寝中の身を守るベッド型シェルター（40～50万円）、防災ベッド枠（34～40万円）のほか、ベッド下を利用するシェルターベッド（約8万円）というのもあるようです。

浮揚式も進化している

一方、東日本大震災以来関心を高めているのが、水害に備える津波シェルター。小型のものは球体や多面体が主流（50万円～）ですが、地震＋津波対策として押し入れ型（約70万円）もあり、南海トラフ地震が想定される地域で注目を集めています。

備えあれば憂いなし。命を守るシェルター、あなたもおひとついかがですか。

※文中の価格は参考。輸入・施工費および消費税は含んでいません。

トコロ変れば

フランス人には誕生日が2回ある■フランス

うひゃあ、そんなにたくさんの誕生日を覚えられないよ。

フランス人には同じファーストネームをもつ人が多く、男性1位のジャン（ヨハネ）や女性1位のマリー（マリア）のように聖書の登場人物からとった名前が多いのが特徴です。

敬虔なカトリックの国ということもありますが、1993年まで聖人や偉人、ギリシャ神話の登場人物など、選べる名前が決められていたことにもよります。

また、カトリックでは聖人の祭日を定めた聖人暦を使うのが一般的で、フランスのカレンダーにも毎日、今日はどの聖人の日と記載されています。子どもをたくさん産んだ時代は名前を考えるのも大変で、そのカレンダーから選ぶ人も多かったといい、今も妊娠して産婦人科に行くと必ずこの聖人名入りカレンダーがもらえるといいます。

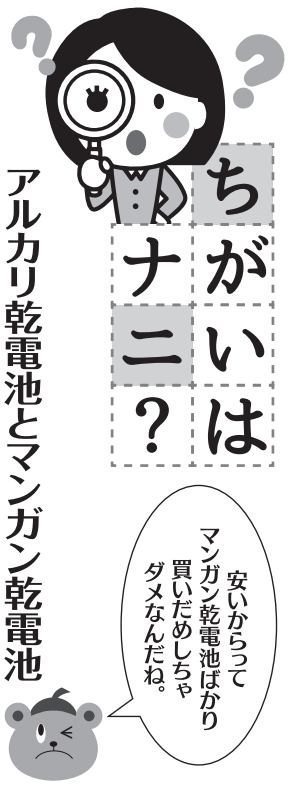
そして自分が生まれた日とは別に、同じ名前の聖人の祭日も祝う習慣があるんだそう。実際に「おめでとう」と声をかけたりプレゼントを贈ったりするそうなので、1年に2回誕生日があるようなもの。どちらの〝誕生日〟も覚えておかなければいけないといいますから、カレンダーが手放せないにちがいありません。

すまいるライフ

おしえて仙人！

ちがいはナニ？

アルカリ乾電池とマンガン乾電池



日常でよく使う乾電池といえば、アルカリ乾電池とマンガン乾電池。どちらもプラス極に二酸化マンガン、マイナス極に亜鉛を使いますが、アルカリ乾電池はその量を増やしたり、電解液を強アルカリ性の物質に変えたりしてパワーアップさせたもので、正式にはアルカリ・マンガン乾電池といいます。

確かに高価なぶん長持ちしますが、実は両者の性能の違いを知って使い分けることこそが、経済的に効率のよい使い方なのです。

まずマンガン乾電池は、パワーは弱いものの休ませると電圧が回復する特徴があるので、リモコンや時計、懐中電灯、家電の時計機能、タイマーなど、微弱な電流を「時々」使う機器類に最適。

一方パワーがあるアルカリ乾電池は、ミュージックプレイヤーやデジタルカメラ、ラジコン、シェーバーなど大きな電流で連続使用する機器に向いています。説明書にアルカリ乾電池使用と書かれている場合には、それだけのパワーが必要ということですね。

これって建築用語

ほかにもたばねた紙や本の厚みも「束が出る」「束見本」なんていうよ。

■束の間

束（つか）というのはもともと古い時代の長さの単位で、1束は指4本ぶんの幅をいいます。なぜ指4本かというと、細長いものを手で握ってひと握りを1束、ふた握りを2束…と数え、そのひと握りが指4本ぶんの長さにあたるからです。

たとえば矢の長さを八束（やつか）、十束（とつか）のようにいいましたが、建築では梁の上で屋根の木組みを支えたり、縁の下で床を支えるなど、短い柱のことを束といいます。束には短いという意味があったことがわかります。それが次第に時間の長さにも用いられ、束の間はほんのわずかな時間という意味で使われるようになったようです。

新顔野菜

「四角豆（しかくまめ）」

最近スーパーで見かけるようになった葉っぱのような四角い豆。熱帯アジア原産で、沖縄ではうりずん豆として知られていましたが、近年では九州などでも栽培されるようになってきました。

シャキシャキした食感が特徴で、あまりクセのない味ですが、ほんの少し苦みがあります。炒め物や天ぷら、スープの具、ゆでてサラダや和え物などでいただくのがオススメ。ゆでる時は歯ざわりが残るよう塩を入れた熱湯で2～3分ゆで、すぐに冷水にとって色止めします。

春の「おえべっさん」です。今年は露店が神社境内だけなので、少し寂しい感じです。